

Tate-Šafarevič group と  
Brauer group との有限性について

名大理 田原賢一

$k$  をある種の global field とする。  $A$  を  $k$  上定義された abelian variety とするとき  $A$  の Tate-Šafarevič group の有限性、 次に  $X$  を  $\text{Spec}(k_0)$  ( $k_0$  は有限体) 上の proper scheme として  $X$  の Brauer group の有限性を調べ、 最後に Tate-Šafarevič group と Brauer group との関係を述べる。

§1. Tate-Šafarevič group

以下特に断りがない限り、基礎体  $k$  は二つの型の global field、つまり代数的数体 ( $\mathbb{Q}$  上の有限次拡大体) か有限体  $k_0$  (標数を  $p$  とする) 上の 1 变数代数函数体とする。  $A$  を  $k$  上定義された任意次元の abelian variety とする。  $A$  が、 $k$  上定義された代数的多様体  $V$  上へ正則変換群によって作用する、つまり  $k$  上定義された

$$V \times A \xrightarrow{\mu} V$$

ならば regular map  $\mu(v, a) = v \cdot a$  が存在して,

$$\left\{ \begin{array}{l} v \cdot e = v \quad (e \text{ は } A \text{ の零点}) \\ (v \cdot a_2) \cdot a_1 = v \cdot (a_2 + a_1) \end{array} \right.$$

を満す。更に  $V$  が principal homogeneous space for  $A$  over  $k$  (以下單に phs for  $A/k$  と記す) とす,

1) 任意の  $v, v' \in V$  に対して

$$v \cdot a = v'$$

なる  $a \in A$  が唯一つである。

2)  $V \times V \xrightarrow{\psi} A$

$$(v, v') \xrightarrow{\psi} a$$

はる 1) で定まる map  $\mu$  が  $k$  上定義された regular map である。

$V, V'$  が phs for  $A/k$  とするとき,  $V \sim V'$  ( $k$ -isomorphic) とす,

$$V \xrightarrow{f} V'$$

はる  $k$  上定義された biregular map  $f$  が存在して,  
 $f(v \cdot a) = f(v) \cdot a$

$k$  上定義された  $\mu$  をもつ phs for  $A/k$   $V$  は常に  $V \sim A$  (その同型は  $a \mapsto v \cdot a$  によって与えられる)。又任意の phs for  $A/k$  は,  $k$  の直積は有限次分離多項式上定義される。

奥をもつ。

$V \in \text{phs for } A/k \in \mathcal{J}$ 。  $V$  の  $k_S$  ( $k$  の separable closure) 上 実義された奥を  $v \in L$ ,  $\sigma \in \text{Gal}(k_S/k)$  ( $k_S/k$  Galois group) に対して,

$$v^\sigma = v \cdot a_\sigma$$

なる  $a_\sigma \in A$  の 唯一の 存在し,  $(a_\sigma)_{\sigma \in G}$  は 1-cocycle となる。

この対応  $V \rightsquigarrow (a_\sigma)$  によって, 次の同型が得られる:

$$H^1(k, A) = H^1(\text{Gal}(k_S/k), A)$$

SI

$$\text{WC}(k, A) = \{\text{phs for } A/k\} / \sim$$

$\Sigma = \Sigma(k)$  を  $k$  の places の全體とする。  $\Sigma$  ごとに,  $k_f \in \Sigma$  に関する  $k$  の 完備化 になると, 次の restriction map  $r_f$  が存在する。

$$H^1(k, A) \xrightarrow{r_f} H^1(k_f, A)$$

$A$  の Tate-Safarevič group  $\text{III} = \text{III}(A) = \text{III}(k, A)$  を 次の exact 序列 によって 実義する。

$$0 \longrightarrow \text{III}(A) \longrightarrow H^1(k, A) \xrightarrow{(r_f)} \prod_{f \in \Sigma} H^1(k_f, A)$$

つまり,  $\text{III}(A)$  は everywhere locally rational points を  $\text{phs for } A/k$  の class の 全体である。 これが次の conjecture である。

Conjecture 1 (Tate, Šafarevič, Lang and Cassels)  
 $\text{III}(A)$  は有限群である。

最近, Milne によって 次の結果が得られる。

Th. 1 ([37])

$A$  を, 有限体  $k$  上 定義された non-singular complete alg. curve  $Y$  の 有理函数体  $k(Y)$  上 定義された 任意次元の abelian variety とする。このとき, もし  $A$  がその有限体  $k$  上 定義されるなら,  $\text{III}(A) = \text{III}(k, A)$  は有限群である。

証明は,  $B$  を  $Y$  の Jacobian variety とすると, Tate ([33]), Oda ([38]) の 結果を使つて,

$\text{Ext}_k^1(B, A)$  ; 有限群

$\cong$

$\text{III}(k, A)$ .

注1) reductive connected linear alg. groups  
 に対して, Conjecture 1 が 成立する ([4], [36]).

注2)  $k$  が 代数的 域体上。1 多数函数体  $k(\tau_2)$  には,  
 $A$  を 任意次元の abelian variety とすると,  $\text{III}(A)$  は  
 有限群ではない (Ogg [22], Šafarevič [24], Reynaud  
 [23]).

注3)  $\text{III}(A)$  が有限である言っても、絶対的・有界であるのではない。例えは、 $\dim_A A = 1$  の限り考へても、すべての 1 次元 abelian varieties に対して  $[\text{III}(A)] < M$  というのではなく。Cassels は  $[\text{III}(A)]$  が十分大きい例を示す。つまり次の命題を与える。

### Prop. 1 ([12])

$p_j$  ( $1 \leq j \leq n$ ) を相異なる  $p_j \equiv -1 \pmod{q}$  の素数とし、  
 $P = \prod_{1 \leq j \leq n} p_j$  とおくと、次のような整数  $d$  が存在する。

$$(1) P \mid d$$

$$(2) mx^3 + m^{-1}y^3 + dz^3 = 0$$

(但し、 $m \nmid P^2$ ,  $m > 1$  は満足)

なるすべての curves or everywhere locally rational points はなく、globally rational point はない。

$A$  は次の式で定義される 1-dim. abelian variety とする：

$$x^3 + y^3 + dz^3 = 0$$

すなはち、curve  $T = T(m)$  ( $m \in \mathbb{Q}^\times$ )

$$mx^3 + m^{-1}y^3 + dz^3 = 0$$

は  $A \cong A/\mathcal{T}$  である。つまり

$$\begin{array}{ccc} \nabla \times A & \xrightarrow{\mu} & \nabla \\ \Downarrow & & \Downarrow \\ ((X,Y,Z) \times (x,y,z)) & \xrightarrow{\quad} & \mu((X,Y,Z) \times (x,y,z)) = (X_0, Y_0, Z_0) \end{array}$$

$$\left\{ \begin{array}{l} X_0 = YZx^2 - myzx^2 \\ Y_0 = ZXy^2 - m^{-1}zxY^2 \\ Z_0 = XYz^2 - xyZ^2 \end{array} \right.$$

とすればよい。このとき次の map  $\phi$  が定義される。

$$\begin{array}{ccc} \mathbb{Q}^* & \xrightarrow{\phi} & H^1(\mathbb{Q}, A) \\ \Downarrow m & & \Downarrow \widetilde{V}(m) \end{array}$$

すると、Prop. 1 によると

$$Z(*) = \{m \in \mathbb{Z} \mid m \mid P^2, m > 1\} \xrightarrow{\text{inj.}} H^1(\mathbb{Q}, A)$$

$$\text{よって, } 3^2 - 1 = [Z(*)] \leq [\text{III}(A)].$$

$\dim_{\mathbb{K}} A = 1$  のとき、この conjecture の由来を調べてみよう。それには二つの理由がある。

(1) Selmer's strong conjecture おもろい (p. 109 [1])

$m \in p$  と素な自然数とし、 $A_m = \{a \in A \mid ma = 0\}$  とするば、

$$0 \longrightarrow A_m \longrightarrow A \xrightarrow{m} A \longrightarrow 0 \quad (\text{exact})$$

よって (p. 665, [21])

$$0 \longrightarrow \frac{A}{mA} \longrightarrow H^1(k, A_m) \longrightarrow H^1(k, A)_m \longrightarrow 0$$

((但し  $A_{\mathbb{K}}$  は  $A$  の  $\mathbb{K}$ -rational points のなす群,  $H^1(\mathbb{K}, A)_m = \text{Ker}(H^1(\mathbb{K}, A) \xrightarrow{m} H^1(\mathbb{K}, A))$ ) )

Selmer group  $S_m$  を以下の exact 序列で定義する。

$$0 \longrightarrow A_{\mathbb{K}}/mA_{\mathbb{K}} \longrightarrow S_m \longrightarrow \text{III}(A)_m \longrightarrow 0$$

すると,  $S_m$  は有限群 (p.266, [15]), そして  $\text{III}(A)_m = \text{III}(A) \cap H^1(\mathbb{K}, A)_m$  も有限群である。持て  $m = p^l$  ( $p \neq \ell$  なる素数)

とすれば、

$$\begin{array}{ccccccc} 0 & \longrightarrow & A_{\mathbb{K}}/p^{l+1}A_{\mathbb{K}} & \longrightarrow & S_{p^{l+1}} & \longrightarrow & \text{III}(A)_{p^{l+1}} \longrightarrow 0 \\ & & \downarrow & & \downarrow & & \downarrow \\ 0 & \longrightarrow & A_{\mathbb{K}}/pA_{\mathbb{K}} & \longrightarrow & S_p & \longrightarrow & \text{III}(A)_p \longrightarrow 0 \end{array}$$

$\hookrightarrow \mathbb{Z}^*$ ,

$$\begin{cases} S^{(l)} = \text{Im}(S_{p^{l+1}} \rightarrow S_p), \quad M = \text{Im}(A_{\mathbb{K}}/pA_{\mathbb{K}} \rightarrow S_p) \\ \nu(p^l) = \dim_{\mathbb{Z}/p\mathbb{Z}} S^{(l)}, \quad g = \dim_{\mathbb{Z}/p\mathbb{Z}} M \end{cases}$$

とあれば、

$$\begin{cases} M \subset \dots \subset S^{(l)} \subset S^{(l-1)} \subset \dots \subset S^{(0)} = S_p \\ \nu(p^l) \geq g \\ \nu(p^{l-1}) - \nu(p^l), \nu(p) - \nu(p^l) : \text{共に偶数} \quad (\text{p.264, [8]}) \end{cases}$$

これにて、次の Selmer's strong conjecture がある。

Conjecture 2 (Selmer)

十分大さい  $l$  について,  $\nu(p^l) = g$

(これは  $\bigoplus_{l=0}^{\infty} S^{(l)} = M$  と同値 (p.264, [8]))

Conjecture 1 は Conjecture 2 の自然な弦張である。

(2) Tamagawa Number の類似からくるもの ([14])

$\mathfrak{f} \in \sum_{\mathbb{R}}$  に対して ( $\mathbb{R}$  では  $\mathbb{R}$  は代数的数体とする)

$$\mathfrak{d}_{\mathfrak{f}}^+ \chi = \begin{cases} \mathfrak{f}\text{-adic integers or } 1 \text{ となる } \mathfrak{f} \text{ 正規化された} \\ \text{加法的 Haar measure} & (\mathfrak{f}; \text{non-archimedean}) \\ \text{普通の Lebesgue measure} & (\mathfrak{f}; \text{real}) \\ 2 \times (\text{普通の } 2\text{-dim. Lebesgue measure}) & (\mathfrak{f}; \text{complex}) \end{cases}$$

と定義し、 $\chi(x)$  を  $A$  の generic point  $x$  の座標。一とし、  
 $\omega = f(x) dx(x)$  を  $\mathbb{R}$  上定義され  $A$  のオーランダ微分とする。

(例えは、 $A$  で  $y^2 = x^3 - g_2 x - g_3$  で定義されるものとすれば、  
 $\omega = y^{-1} dx$  と取れる。)  $\omega$  は  $\mathbb{R}$  の元の倍数を除いて  
唯一つである。又  $\omega$  は  $A_{\mathbb{R}}$  上  $\mathfrak{f}$  Haar measure  $d_{\mathfrak{f}}^+ \chi$ 、  
正規化を定義する:

$$\mu_{\mathfrak{f}}(\omega, E) = \int_{a \in E} |f(a)|_{\mathfrak{f}} d_{\mathfrak{f}}^+ \chi(a)$$

(但し、 $E$  は  $A_{\mathbb{R}}$  の measurable subset,  $|||_{\mathfrak{f}}$  は普通の  
うる正規化された  $\mathfrak{f}$ -adic valuation, つまり

$$|||_{\mathfrak{f}} = \begin{cases} \pi \in \mathbb{R}_{\mathfrak{f}} \text{ の素元とするとき, } |\pi|_{\mathfrak{f}} = (\text{剰余体の位数})^{-1} & (\mathfrak{f}; \text{non-archim.}) \\ \text{普通の絶対値} & (\mathfrak{f}; \text{archim.}) \end{cases}$$

$\mu_g(\omega, E)$  は  $\omega = f(x)dx(x)$  の函数  $f$  の選び方によりて、  
Haar measure となる。つまり  $A_{k_f}$  の transformation  
群に invariant である。linear alg. group に対する  
結果については、Weil [35] を見よ。

$\omega'$  を  $k$  上 実数  $\alpha$  で  $A$  上の他のオーランダ微分 とすれば、

$$\begin{cases} \omega' = \alpha \omega \quad (\alpha \in k^*) \\ \mu_g(\omega', A_{k_f}) = |\alpha|_f \mu_g(\omega, A_{k_f}) \end{cases}$$

特に、

$$\frac{\prod \mu_g(\omega', A_{k_f})}{\prod \mu_g(\omega, A_{k_f})} = \prod |\alpha|_f = 1$$

さて、 $\alpha \in T(A)^{-1} = \prod \mu_g(\omega, A_{k_f})$  が“収束すれば”、それは  $\omega$  の  
選び方によりて、 $A \otimes k$  のみによって定まる。(  $A$  の complex  
multiplication をもつてゐる場合には、[2], [3] で考察されて  
ゐる。) そして、 $A$  が  $p$  で good reduction をもつてば  
(実際はほとんどすべて  $p$  でそうである)。

$$\mu_g(\omega, A_{k_f}) = \frac{N_f}{\text{Norm}_f} \triangleq \frac{\#\{A \text{ and } g \text{ a rational point}\}}{\text{absolute Norm}_f}$$

更に、 $k = \mathbb{Q}_p$ ,  $g = p$  のときには

$$\mu_g(\omega, A_{k_f}) = \frac{N_f}{p}$$

一方、Lang ([20]) は有限体  $k$  上の isogenous alg.

group は同じ個数の  $\mathbb{K}_0$ -rational points をもつことを示す。  
 $A^{(1)}, A^{(2)}$  が isogenous であり,  $\omega^{(1)}, \omega^{(2)}$  を  $\mathbb{K}$  上定義された  $A^{(1)}, A^{(2)}$  の 1 種微分とする。このとき,  $A^{(1)}$  が  $\mathbb{F}$  で good reduction をもつとは,  $A^{(2)}$  もそうであり (IV-5, [27]).

$$\mu_g(\omega^{(1)}, A_{\mathbb{K}_0}^{(1)}) = \mu_g(\omega^{(2)}, A_{\mathbb{K}_0}^{(2)})$$

よって,

$$T(A^{(1)}/A^{(2)}) = \frac{\mu_g(\omega^{(2)}, A_{\mathbb{K}_0}^{(2)})}{\mu_g(\omega^{(1)}, A_{\mathbb{K}_0}^{(1)})}$$

“well-defined” であり,  $T(A^{(i)})$  ( $i=1, 2$ ) が 定義される。

$$T(A^{(1)}/A^{(2)}) = \frac{T(A^{(1)})}{T(A^{(2)})}$$

$A^{(1)} \xrightarrow{\nu_1} A^{(2)}$  が “isogeny” ,  $\text{Ker } \nu_1 \stackrel{\Delta}{=} \Delta^{(1)}$ ,  $H^1(k, A^{(1)})_{\nu_1} \stackrel{\Delta}{=} \text{Ker}(H^1(k, A^{(1)}) \rightarrow H^1(k, A^{(2)}))$ ,  $\text{III}_{\nu_1}^{(1)} \stackrel{\Delta}{=} \text{III}(A^{(1)}) \cap H^1(k, A^{(1)})_{\nu_1}$  とすれば,

$$\begin{array}{ccccccc} 0 & \longrightarrow & A_{\mathbb{K}}^{(2)}/_{\nu_1} A_{\mathbb{K}}^{(1)} & \longrightarrow & H^1(k, \Delta^{(1)}) & \longrightarrow & H^1(k, A^{(1)})_{\nu_1} \longrightarrow 0 \\ & & \parallel & & \cup & & \cup \\ 0 & \longrightarrow & A_{\mathbb{K}}^{(2)}/_{\nu_1} A_{\mathbb{K}}^{(1)} & \longrightarrow & S^{(\nu_1)} & \longrightarrow & \text{III}_{\nu_1}^{(1)} \longrightarrow 0 \end{array}$$

以上の記号の下で, これらが得られる (p.184~5, [14]).

### Prop 2

$$\checkmark A^{(1)} \xrightarrow{\nu_1} A^{(2)}, \quad A^{(2)} \xrightarrow{\nu_2} A^{(1)}$$

が dual isogenies とすると、

$$T\left(\frac{A^{(1)}}{A^{(2)}}\right) = \frac{|S^{(u_2)}| |(A_k^{(2)})_{v_2}|}{|S^{(u_2)}| |(A_k^{(1)})_{v_1}|}$$

重ね、 $\text{III}^{(1)}$  (あるいは  $\text{III}^{(2)}$ ) が有限なら

$\left\{ \begin{array}{l} \text{III}^{(2)} (\text{あるいは } \text{III}^{(1)}) \text{ が有限} \\ \text{である} \end{array} \right.$

$$\left\{ \begin{array}{l} T\left(\frac{A^{(1)}}{A^{(2)}}\right) = \frac{|A_k^{(2)}/_{u_1} A_k^{(1)}| |(A_k^{(2)})_{v_2}| |\text{III}^{(1)}|}{|A_k^{(1)}/_{u_2} A_k^{(2)}| |(A_k^{(1)})_{v_1}| |\text{III}^{(2)}|} \end{array} \right.$$

重ね、 $A_k^{(1)}$  (あるいは  $A_k^{(2)}$ ) が有限なら

$\left\{ \begin{array}{l} A_k^{(2)} (\text{あるいは } A_k^{(1)}) \text{ が有限} \\ \text{である} \end{array} \right.$

$$\left\{ \begin{array}{l} T\left(\frac{A^{(1)}}{A^{(2)}}\right) = \frac{|A_k^{(2)}|^2 |\text{III}^{(1)}|}{|A_k^{(1)}|^2 |\text{III}^{(2)}|} \end{array} \right.$$

上のことがら、Tate-Šafarevič group が有限である  
ことが望ましい。

Tate-Šafarevič group について最も興味ある結果は次のもの。

## Th. 2 (Th. 26.1, [15])

$A$  を代数的数体上定義された 1 次元 abelian variety とする。  $A$  の Tate-Šafarevič group  $\text{III} = \text{III}(kA)$  に次の skew-symmetric pairing  $\ell$

$$\text{III} \times \text{III} \xrightarrow{\ell} \mathbb{Z}/2\mathbb{Z}$$

が存在して,  $\text{Ker } l$  は  $\text{III}'$  の divisible elements の子群と一致する。

### Cor. 1

もし  $\text{III}'$  が有限なら, その個数  $[\text{III}']$  は平方。

### Cor. 2

$\text{III}(3)/\text{II}(3)$  は有限群。

(但し,  $\text{III}(3), \text{II}(3)$  はそれぞれ  $\text{III}, \text{II}$  の 3-primary parts)

Th. 2 は任意次元の abelian varieties に拡張される。つまり

### Th. 2' (Th. 3.2, [30])

$A$  を  $k$  上定義された任意次元の abelian variety とする,  $A'$  を  $A$  の dual i.e.  $A' = \text{Ext}(A, G_m)$  ( $G_m$  は  $k$  上の乘法群) とする。 $A, A'$  の Tate-Szyberic groups  $\text{III}, \text{III}'$  の 3-primary parts  $\text{III}(3), \text{III}'(3)$  ( $3 \neq p$ ) は bilinear pairing  $l'$

$$\text{III}(3) \times \text{III}'(3) \xrightarrow{l'} \mathbb{Q}/\mathbb{Z}$$

が存在して,  $\text{Ker } l'$  は  $\text{III}(3)$  の divisible elements の子群と一致する。

主4) この定理の証明には, Cassels の方法と abstract  
cohomology theory を使用するものとの二つがある。

$p \neq 3$  の素数  $q$  に対して,  $H^i(k, A; q)$  は  $i$ -lim.  
cohomology group  $H^i(k, A)$  の  $q$ -primary part である。  
 $\text{Ker}^i(k, A; q) = \text{Ker}(H^i(k, A; q) \rightarrow \prod_{g \in \Sigma} H^i(k_g, A; q)) \subset$   
である。特に  $\text{Ker}^1(k, A; q) = \text{III}(k, A)(q) = \text{III}(q)$ 。  
 $M \in G = \text{Gal}(k_S/k)$  上の有限加群,  $M' \in M$  の Cartier  
dual i.e.  $M' = \text{Hom}(M, \mathbb{G}_m) \cong 1$ , locally compact  
abelian group  $D$  の Pontryagin character group  
を  $D^*$  と書けば,

$$H^0(k_p, M) \cong H^2(k_p, M')^* \quad (\text{Th. 2.1, [30]})$$

さて,  $\mathbb{Z}$  の paring  $\ell''$  の存在する。

$$\text{Ker}^0(k, A; q) \times \text{Ker}^2(k, A'; q) \xrightarrow{\ell''} \mathbb{Z}$$

(但し,  $A' = \text{Ext}(A, \mathbb{G}_m)$ )

$$\text{又 } H^0(k_g, A) \cong H^1(k_g, A')^* \quad (\text{Th. 3.5}), \quad \text{等同型}$$

$$\prod_{g \in \Sigma} H^0(k_g, A) \xrightarrow{\beta} H^1(k, A')^*$$

が存在する。このとき,

Th. 3 (Th. 3.4, [30])

上の記号の下で, 次のものは同値。

(1)  $\text{Ker}^1(k, A; \beta) = \text{III}(\beta)$ ; 有限

(2)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{Im}(H^0(k, A; \beta) \longrightarrow \prod H^0(k_\beta, A; \beta)) = \text{ker } \beta \\ \text{pairing } l'' \text{ が完全な duality を与える.} \end{array} \right.$

*Conjecture 1* は弱い次の *Conjecture 2* である。

Conjecture 3 (Tate)

$\text{III}(\beta)$  は有限群である。

例 (Selmer [26], [27])

$A : x^3 + y^3 - cz^3 = 0$  で定義される 1-dim elliptic curve とすると,  $\text{III}(\beta)$  は有限群である. ( $0 \leq c \leq 500$ )

注5)  $k$  を代数的閉体上の 1 次数多様体とし,  $A$  を上定義された任意次元の abelian variety とする,  
 $\text{III}(\beta) = (\oplus_{\beta} / \mathbb{Z}_\beta, \text{直積})$  は無限群となる。

## §2. Brauer group

次の conjecture がある。

Conjecture 4 (M. Artin)

$k_0$  を有限体とする.  $X \in \text{Spec}(k_0)$  上の proper scheme とすれば,  $\text{Br}(X)$  は有限群である.

(a)  $\dim X = 1, d \geq 2$ , Conjecture 4 は成立。 実験

#### Th. 4

$X \in k_0$  上 実験された complete alg. curve とする (13)

$$Br(X) = 0$$

この証明は, structure hom.  $f: X \rightarrow \text{Spec}(k_0)$  と  
対して,  $R^if_{*}(G_m) = 0$  ( $i \geq 2$ ) と Leray のスペクトル列  
 $E_2^{p,q} = H^p(k, R^if_{*}(G_m)) \rightarrow H^q(X, G_m)$  を適用し, 更に, Lang  
の定理  $H^i(k_0, L) = 0$  ( $L$ : alg. group/ $k$ ) を使って,

$$Br(X) = H^1(X_{\text{et}}, G_m) = H^1(k_0, \mathbb{Z}) = 0$$

を帰着させる。

上の証明でも使用するので,  $H^*(?, G_m)$ ,  $Br(?)$  の計算  
でまとめておく。

	(C <sub>1</sub> )-type の体 $K$	
I	(1) 代数的閉体上の 1 次数体 (2) 離散的附徴の商に完備な体 $K$ で その剰余体が代数的閉体	$\left. \begin{array}{l} \\ \\ \end{array} \right\} H^i(K, G_m) = 0 \quad (i \geq 1)$
II	$K = \mathbb{R}$ : 實数体	$Br(\mathbb{R}) = \mathbb{Z}/2\mathbb{Z}$
III	離散的附徴の商に完備な体 $K$ で その剰余体が有限体	$Br(K) = \mathbb{Z}/2\mathbb{Z}$

II	代數的數體 $K$	$0 \rightarrow B_r(K) \rightarrow \sum B_r(K_p) \rightarrow \frac{\mathbb{Q}}{\mathbb{Z}} \rightarrow 0$
IV	$X$ : 代數的數體上空集 $\sharp X = 0$ alg. curve	$B_r(X) = 0$
V	$X$ : 分離的數體上空集 $\sharp X = 0$ proper alg. curve	$B_r(X) = 0$
VI	$X = P_2$ ; 有限體又分歧的數體上, $\sharp X \geq 2$ projective space	$B_r(P_2) = 0$
VII	$X$ : 有限體上空集 $\sharp X = n$ complete alg. curve	$H^1(X, G_m) = 0$ $H^2(X, G_m) = B_r(X) = 0$ $H^3(X, G_m) = (\frac{\mathbb{Q}}{\mathbb{Z}})^c$ $H^i(X, G_m) = 0 \quad (i \geq 4)$
VIII	$X = \text{Spec}(O_K)$ ( $O_K$ : 代數的數體 $K$ , 整環)	
	(1) $K$ : purely imaginary $a \in \mathbb{Z}$	$H^1(X, G_m) = 0$ $H^2(X, G_m) = B_r(X) = 0$ $H^3(X, G_m) = \frac{\mathbb{Q}}{\mathbb{Z}}$ $H^i(X, G_m) = 0 \quad (i \geq 4)$
	(2) $K$ : real place $a \in \mathbb{R} \setminus \mathbb{Z}$	$B_r(X) = 0$
	(3) $K = \mathbb{Q}, a \in \mathbb{Z}$	$B_r(X) = 0$

(b)  $\dim X = 2$  のとき, ある特別な場合には“大体”

Conjecture 4 は成立する. つまり

Th. 5 ([34])

$$X = \begin{cases} \text{$k_0$ 上 実数} \text{ エルゴ 2 次元の abelian variety の} \\ \text{共 $n$ $k_0$ 上 実数} \text{ エルゴ curves の直積} \end{cases}$$

このとき,

$$Br(X)(\text{non } p) = \prod_{\beta \neq p} Br(X)(\beta) \text{ は有限群}$$

この証明には, 次の結果 (Th. 5.2, [33]) を使用する.

Th. 6

$X$  は  $k_0$  上 実数 エルゴ projective smooth alg. surface とする,  $\bar{X} = X \times_{k_0} \bar{k}_0$  ( $\bar{k}_0$ ;  $k_0$  の代数的閉包) が connected とする. このとき, 次のものが成立する.

(1)  $Br(X)(\beta)$ ; 有限 ( $\beta \neq p$ )

(2)  $NS(X) \otimes \mathbb{Z}_l \cong H^2(\bar{X}, T_{\bar{\beta}}(\mu))$

$$\left( \begin{array}{l} NS(X); X \text{ a Néron-Severi group} \\ \text{但し } \mathbb{Z}_l = \varprojlim_n \mathbb{Z}/l^n \mathbb{Z} \\ T_{\bar{\beta}}(\mu); 1^\text{次} \text{ 有限の} l \text{-群 } \mu \text{ の Tate } l\text{-group} \end{array} \right)$$

更に, この二つが成立すれば

$Br(X)(\text{non } p)$ ; 有限群.

注(1) Th. 6 の記号の下で, Th. 2 と Th. 2' が対応する  
結果が成立する (Tate, Th. 5.1, [33]).

$$\mathrm{Br}(X)(\mathrm{non}p) \times \mathrm{Br}(X)(\mathrm{non}p) \xrightarrow{\ell^*} \mathbb{Z}/2$$

ある skew-symmetric pairing  $\ell^*$  が存在し,  $\mathrm{Ker} \ell^*$  は  
 $\mathrm{Br}(X)(\mathrm{non}p)$  の divisible elements の 76 位群と一致する.

### §3. Tate-Šafarevič group と Brauer group との 関係

今迄述べた如く, Tate-Šafarevič group と Brauer group とは 1 次元と平行な理論が成立する。それ  
らの間に何らかの関係があるとすぐ思われる。それは  
次の定理で与えられる。

Th. 7 (Th. 3.1, [33])

$Y = \left\{ \begin{array}{l} \mathrm{Spec}(O_K) \text{ の open subset } (\text{ただし } O_K; \text{ 代数体, 整数環}) \text{ が} \\ \text{有限体 } k \text{ 上 実験的でない irreducible smooth curve-scheme} \\ f: X \longrightarrow Y \text{ で } \dim 1 \text{ の fibre が } \text{proper morphism} \\ \text{とし, 重ね} \end{array} \right\}$

$\left( \begin{array}{l} X; \dim 2 \text{ の regular scheme} \\ f \text{ の geometric fibre; connected} \\ f \text{ の generic fibre; smooth} \end{array} \right)$

とす。  $\exists a \in \mathbb{Z}, t$  (  $f \circ$  "section とては",  $\geq 2$ , exact

は列が得られる。

$$0 \longrightarrow B_r(Y) \longrightarrow B_r(X) \longrightarrow \text{III}^*(k, A) \longrightarrow 0$$

但し,  $k$  は  $Y$  の有理整数体とし,  $A$  は generic fibre の Jacobian variety とする。 $Y^{(1)}$  は  $Y$  の closed points の集合とするとき,  $\text{III}^*(k, A)$  は次の exact な列で定義される。

$$0 \longrightarrow \text{III}^*(k, A) \longrightarrow H^1(k, A) \longrightarrow \prod_{y \in Y^{(1)}} H^1(k_y, A)$$

勿論  $\text{III}^*(k, A) \supset \text{III}(k, A)$  である。)

この定理の証明には、次の命題が基本的である。

### Prop. 3 (M. Artin)

$Y$  は Th. 7 の如く,  $f: X \rightarrow Y$  を  $\dim 1 = 0$  fibre をもつ proper morphism とし,  $X$  は  $\dim 2 = 2$ , regular scheme とする。このとき,

$$R^q f_*(G_{m, X}) = 0 \quad (q \geq 2)$$

注7) 特に  $k$  が "totally imaginary" とするとき

$$Y = \text{Spec}(O_R)$$

$$\text{III}^*(k, A) = \text{III}(k, A)$$

注8)  $Y$  が  $k$  上 定義された smooth dg. curve

scheme の場合、特に  $Y$  が complete なら

$$\begin{cases} Br(Y) = 0 \\ Br(X) = \text{III}(k, A) = \text{III}(k, A) \end{cases}$$

よって、この場合には、 $Br(X)$  が有限群であることは  
 $\text{III}(k, A)$  が有限群であることは同値である。

### 参考文献 (更に [15], [19], 卷末の文献表) と参照されれり。

- [1] B.J.Birch, Conjectures concerning elliptic curves, Pro.  
Symposia in Pure Math., VIII (1965), p.106-112.
- [2] B.J.Birch and H.F.F.Swinnerton, Notes on elliptic curves (I),  
J.reine angew. Math., 212(1963), p.7-25.
- [3] \_\_\_\_\_, Notes on elliptic curves (II),  
J. reine angew. Math., 218(1965), p.79-108.
- [4] A.Borel, Some finiteness properties of adele groups over  
number fields, Publ. Math. Inst. Hautes Études Sci.,  
16(1963), p.5-30.
- [5] J.W.S.Cassels, The rational solutions of the Diophantine  
equation  $Y^2 = X^3 - D$ , Acta Math., 82(1950), p.243-273.
- [6] \_\_\_\_\_, Arithmetic on curves of genus 1 (I),  
J. reine angew. Math., 202(1959), p.52-99.
- [7] \_\_\_\_\_, \_\_\_\_\_ (II),  
J. reine angew. Math., 203(1960), p.174-208.

- [8] J.W.S.Cassels, Arithmetic on curves genus 1 (III),  
London Math. Soc., 12(1962), p.256-296.
- [9] \_\_\_\_\_, \_\_\_\_\_ (IV),  
J. reine angew. Math., 211(1962), p.95-112.
- [10] \_\_\_\_\_, Arithmetic on elliptic curves, Proc. Intern.  
Congress Math. Stockholm, 1962, p.234-246.
- [11] \_\_\_\_\_, Arithmetic on curves of genus 1 (V),  
J. London Math. Soc., 38(1963), p.244-248.
- [12] \_\_\_\_\_, \_\_\_\_\_ (VI),  
J. reine angew. Math., 214(1964), p.65-70.
- [13] \_\_\_\_\_, \_\_\_\_\_ (VII),  
J. reine angew. Math., 216(1964), p.150-158.
- [14] \_\_\_\_\_, \_\_\_\_\_ (VIII),  
J. reine angew. Math., 217(1965), p.180-199.
- [15] \_\_\_\_\_, Diophantine equations with special reference  
to elliptic curves, J. London Math. Soc., 41(1966),  
p.193-291.
- [16] J.W.S.Cassels and A.Frolich, Algebraic number theory,  
1967, Academic Press.
- [17] A.Grothendieck, Fondements de la Geometrie Algebrique,  
Secretariat Math., 11rue Pierre Curie, Paris.

- [18] A.Grothendieck, Le groupe de Brauer, I, II, Seminaire Bourbaki, 290(1961) and 297(1965).
- [19] \_\_\_\_\_, " \_\_\_\_\_, III, Seminaire Bourbaki
- [20] S.Lang, Algebraic groups over finite fields, Amer. J. of Math., 78(1956), p.555-563.
- [21] S.Lang and J.Tate, Principal homogeneous spaces over abelian varieties, Amer. J. of Math., 76(1962), p.659-684.
- [22] A.P.Ogg, Cohomology of abelian varieties over function fields, Ann. of Math., 76(1962), p.185-212.
- [23] M.Raynaud, Caracteristique d'Euler-Poincare d'un faisceau et cohomologie des varietes abeliennes, Seminaire Bourbaki 287(1964).
- [24] L.R.Safarevic, Principal homogeneous spaces defined over a function field, Amer. Math. Soc. Trans., 37(1964). p.85-114.
- [25] \_\_\_\_\_, Algebraic number fields, Proc. Intern. Congress Math. Stockholm, 1962, p.163-176.
- [26] E.S.Selmer, The diophantine equation  $ax^3+by^3+cz^3=0$ , Acta Math., 85(1951), p.203-362.
- [27] \_\_\_\_\_, The diophantine equation  $ax^3+by^3+cz^3=0$ . Completion of the tables, Acta Math., 92(1954), p.191-197

- [28] J.P.Serre, Cohomologie galoisienne, Springer, 1964.
- [29] \_\_\_\_\_, Abelian  $\ell$ -adic representations and elliptic curves, W.A.Benjamin, Inc., 1968.
- [30] J.Tate, Duality theorems in galois cohomology over number fields, Proc. Intern. Congress Math. Stockholm, 1962, p.288-295.
- [31] \_\_\_\_\_, Principal homogeneous spaces for abelian varieties, J. reine angew. Math., 209(1962), p.98-99.
- [32] \_\_\_\_\_, Algebraic cohomology classes, Woods Hole Summer Institute on Algebraic Geometry, 1964.
- [33] \_\_\_\_\_, On the conjecture of Birch and Swinnerton-Dyer and a geometric analog, Seminaire Bourbaki 306(1965).
- [34] \_\_\_\_\_, Endomorphisms of abelian varieties over finite fields, Invent. Math., 2(1966), p.134-144.
- [35] A.Weil, Adeles and algebraic groups, Lecture Notes, Princeton, 1961.  
(追加)
- [36] A.Borel and J.P.Serre, Theoremes de finitude en cohomologie galoisienne, Comm. Math. Helvetice, 39(1964), p.111-164.
- [37] J.S.Milne, Extensions of abelian varieties defined over a finite field, Invent. Math., 5(1968), p.63-84.
- [38] T.Oda, Abelian varieties over a perfect field and Dieudonne modules. Thesis, Harvard University, 1967.